ダイジェスト版　埼玉県立総合教育センター　研究報告書第３９６号

「彩の国」さいたま
埼玉県

平成２８～２９年度調査研究（１年次）中間報告

読書活動推進における学校と公立図書館の連携に関する調査研究

埼玉県立総合教育センター　生涯学習推進担当

１　はじめに

埼玉県マスコット
「コバトン」

本県では「埼玉教育の振興に関する大綱」及び「第２期生きる力と絆の埼玉教育プラン-埼玉県教育振興基本計画-」のもと、「埼玉県子供読書活動推進計画（第三次）」に則り、各学校や公立図書館等において子供たちの読書活動のさらなる推進に向けて取り組んできた。

そのような中、平成２８年１２月２１日に中央教育審議会から**「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」**が出された。この答申において、次期学習指導要領等改訂の基本的な方向性及び各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性が示された。その中で、言語能力の育成や子供の学習課題等に応じた学びの充実、国語科の改善・充実に向けて、読書活動の充実や公共図書館との連携等について言及された。

また、これからの学校図書館の役割を踏まえた学校図書館の運営に係る基本的な視点を整理する必要性や平成２６年の学校図書館法の一部改正による学校司書としての資格・養成の在り方等についての検討の必要性を受けて、平成２８年１０月に学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議から**「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」**が出された。この中で、学校図書館に期待される役割等について言及された。

各学校においてこれまで取り組まれてきた読書活動推進や学校図書館の運営は、主に司書教諭や学校司書あるいは学校図書館教育担当の教員が中心となって進められてきたが、学校がより専門性の高い公立図書館と連携を図ることで、「読書活動がさらに活性化・活発化されないだろうか」、「読書活動を支える学校図書館のさらなる充実を図ることができないだろうか」、そして「学校図書館が上記答申や報告にもあるような役割を果たすための一助になるのではないか」と考えた。

そこで本研究では、学校と公立図書館の連携に焦点を当て、調査研究を進めていく。本調査研究を通して、双方の連携が促進され、子供たちの読書活動や学習活動がより一層充実することを期待する。

２　研究の目的

読書活動のより一層の推進を図るために学校と公立図書館との連携の在り方について調査研究するとともに、読書活動のさらなる充実に向けて具体的な方策を研究開発することが目的である。

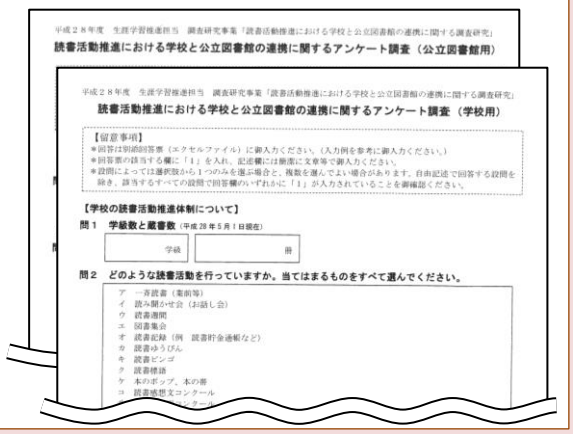
（１）　学校と公立図書館の連携における実態を把握し、連携を行う上での促進要因や阻害要因を明らかにする。（１年目）

（２）　学校と公立図書館の連携を促進させるような資料や読書活動をより充実させるための具体的な連携事例を作成し、提案する。（２年目）

３　研究の方法

下記のとおり、アンケート調査を行い、その結果を考察した。

（１）　調査対象
　ア　県内抽出小学校２０校、中学校２０校
　　（抽出２０市町　各市町任意の小学校１校・中学校１校）
　イ　県内全公立図書館（市町村立図書館）
　　※図書館が複数ある市町村は中央館がとりまとめて回答
（２）　調査内容
　ア　上記ア対象　・学校の読書推進体制について
　　・学校司書・司書教諭について
　　・公立図書館との連携について
　イ　上記イ対象　・学校との連携について
（３）　調査期間
　平成２８年１０月中旬～１１月中旬



平成２８年度　生涯学習推進担当　調査研究事業「読書活動推進における学校と公立図書館の連携に関する調査研究」
読書活動推進における学校と公立図書館の連携に関するアンケート調査（公立図書館用）

平成２８年度　生涯学習推進担当　調査研究事業「読書活動推進における学校と公立図書館の連携に関する調査研究」
読書活動推進における学校と公立図書館の連携に関するアンケート調査（学校用）

【留意事項】
＊回答は別紙回答票（エクセルファイル）に御入力ください。（入力例を参考に御入力ください。）
＊回答票の該当する欄に「1」を入れ、記述欄には簡潔に文章等で御入力ください。
＊設問によっては選択肢から１つのみを選ぶ場合と、複数を選んでよい場合があります。自由記述で回答する設問を除き、該当するすべての設問で回答欄のいずれかに「1」が入力されていることを御確認ください。

【学校の読書活動推進体制について】
問１　学級数と蔵書数（平成28年5月1日現在）
学級　　冊
問２　どのような読書活動を行っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。
ア　一斉読書（朝前等）
イ　読み聞かせ会（お話し会）
ウ　読書週間
エ　図書集会
オ　読書記録（例　読書貯金通帳など）
カ　読書ゆうびん
キ　読書ビンゴ
ク　読書標語
ケ　本のポップ、本の帯
コ　読書感想文コンクール

4　研究の内容（アンケート調査の結果と考察）

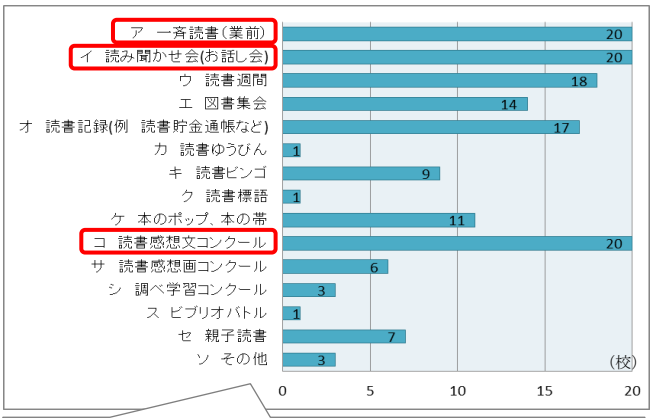
※アンケート調査結果を抜粋して掲載

（１）　小・中学校

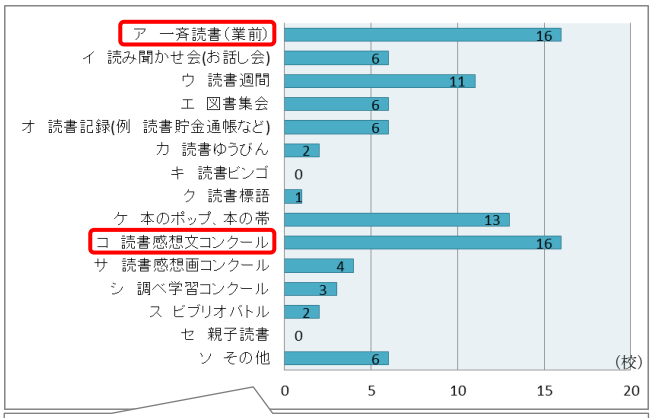
【学校の読書活動推進体制について】

どのような読書活動を行っていますか。（複数回答可）

①小学校（ｎ＝20）



②中学校（ｎ＝20）



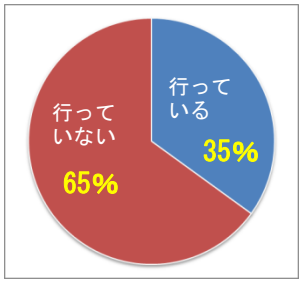
ソ　その他（３）
- 読書へのアニマシオン
- 業前読み聞かせ（教員・高学年・図書委員・PTA）
- 図書委員による紙芝居、読書の木

ソ　その他（６）
- ブックトーク　　・読書キャンペーン、しおり配布
- 長期休み前に貸出冊数を通常より多くする貸出促進キャンペーン（年2回）
- 地域連携読書会　　・読書表彰「愛読賞」
- 生徒会朝会を図書委員会で担当し、本の紹介

【考察】
- 全体的に小学校の方が中学校よりもより多くの活動に取り組んでいる。また、発達段階に応じた取組易さの違いが見受けられた。（小学校では「読み聞かせ会」「読書記録」「読書ビンゴ」「親子読書」、中学校では「本のポップ、本の帯」など）
- 小、中学校とも「業前の一斉読書」は取り組みやすく意識化、習慣化しやすい活動である。

校内において教職員を対象とした研修として、読書活動や読書指導に関わる研修あるいは学校図書館の利用や活用の仕方などの学校図書館にかかわる研修を行っていますか。

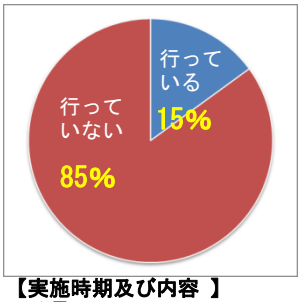
①小学校（ｎ＝20）



【実施時期及び内容】

４月　・学校図書館の利用の仕方
　　・読書活動の推進
６月　・読書感想文の指導
７月　・貸出用パソコンの操作
８月　・読み聞かせの技法等
９月　・読書感想文の指導

②中学校（ｎ＝20）



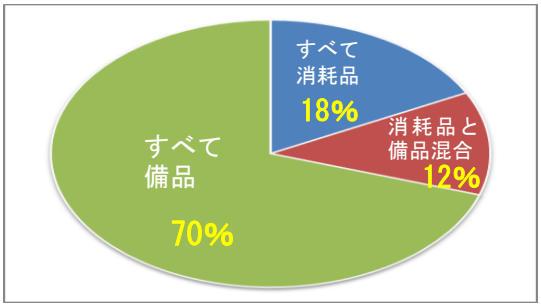
【実施時期及び内容 】

４月
- 学校図書館の利用方法
- 朝読書の指導方法
- 司書教諭と学校司書の役割分担説明
- T.T による授業支援やパスファインダーなどのレファレンスサービスの情報提供

【考察】
- 年度当初に図書館の活用の仕方など基本的な内容の研修を行うことで学校図書館の活用や読書活動の一層の推進が図れるのではないか。
- 児童生徒に主体的、対話的で深い学びをさせていくために、学校図書館活用がますます重要視されている。そのために、学校図書館が読書センター・学習センター・情報センターとしての役割を果たすとともに、教職員の研修も必要である。
- 読書感想文指導は国語科の授業として取り組む課題であるが読書感想文指導研修会は好評である。
- 市町村段階で学校図書館研修を行う場合には、公共図書館の学校担当者や児童担当者に呼びかけて、一緒に研修し、内容の共有化を図っていくとよい。

学校の蔵書の予算区分はどのようになっていますか。また、新刊の購入本や蔵書の廃棄本は、どのように決定していますか。

小・中合計（ｎ＝40）



新刊の購入本の決定について（主な回答）
- 教職員（各学年）・生徒等からの希望をもとに決定
- 司書教諭が図書館司書や部会、支援員等との話し合いを経て決定
- 司書教諭がカタログ等から決定
- 店頭、展示会でのリサーチ（中・３校）から決定

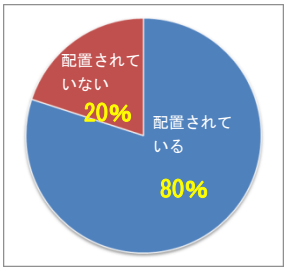
蔵書の廃棄本の決定について（主な回答）
- 内容が現状と合わないものを順次廃棄
- 痛み、破損等が激しいものを順次廃棄
- 廃棄基準により廃棄（2校）・廃棄を行っていない（4校）

【考察】
- カタログ購入では本の内容が分からないことが多い。図書購入を充実させるためには学校司書との連携や図書館から選書の参考になるような最新情報の提供があるとよい。
- 廃棄を促進するためには、「廃棄基準」の整備が必要である。

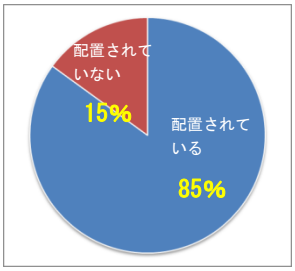
【司書教諭・学校司書等について】

司書教諭は配置されていますか。

①小学校（n＝20）

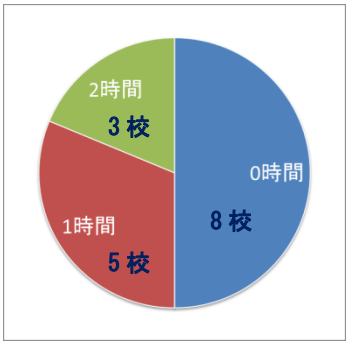


②中学校（n＝20）

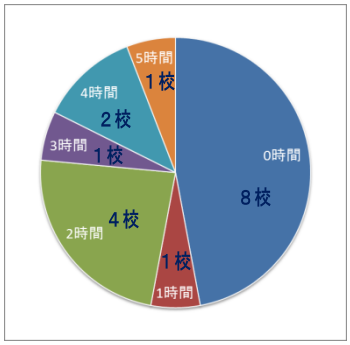


司書教諭の職務に割り振られている時間はどれくらいですか。

①小学校（n＝16）

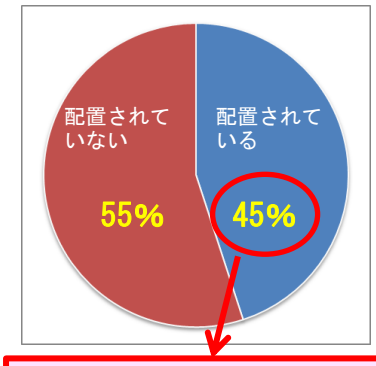


②中学校（n＝17）



学校司書は配置されていますか。

小・中合計（n＝40）



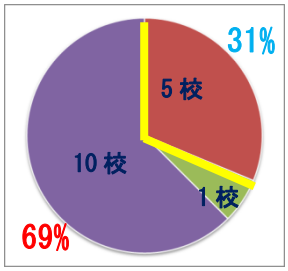
全ての配置校（１８校）
「読書指導や読書活動が充実した」「司書教諭もしくは担当者の学校図書館運営や整備における負担が軽減した」と回答。

学校司書が配置されてよかったこと。

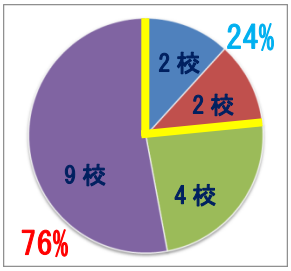
【主な回答】
- 図書館の環境整備（本の整理整頓・修繕、展示・掲示物の充実、図書室のレイアウト等）が進んだ。
- 利用者や貸出の増加、円滑化が進んだ。（貸出・返却がスムーズにできる、図書を借りる児童が増える等）
- 図書選定の相談ができた。
- 学習支援（本の紹介・準備、出前授業）をしていただけた。
- いつも図書室が開いており、子供たち利用しやすい。

その時間は職務を行うのに十分ですか。

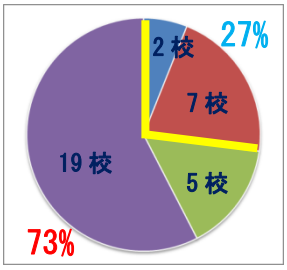
①小学校（n＝16）



②小学校（n＝17）



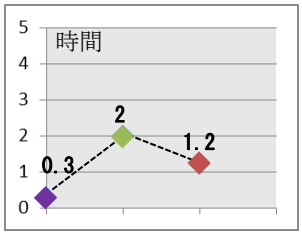
③小・中合計（n＝33）



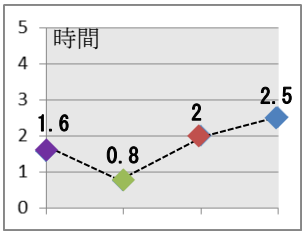
■足りない　■少し足りない　■ほぼ足りている　■十分足りている

「職務に対する充足感」と「職務の割り振りの平均時間」の関係

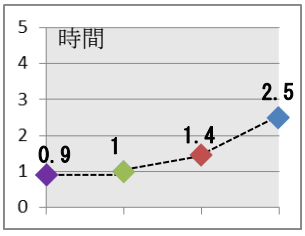
①小学校（n＝16）



②中学校（n＝17）



③小・中合計（n＝33）



◆足りない　◆少し足りない　◆ほぼ足りている　◆十分足りている

【考察】
- 司書教諭の活動のための時間が確保されていない（０時間）学校が、小、中学校とも約半数となっており、そのほとんどが職務を行うためには時間が足りないと感じている。
- 「職務を行うための割り振り時間」と「足りている・足りないの実感」の関係性については、小・中合計で見ると「足りている」と回答している方が「職務の割り振りの平均時間」が「長い」傾向が読み取れた。一方で、「１時間」でも「足りている」と回答している学校や、「５時間」でも「足りない」と回答している学校があるなど、両者の明確な関係性を認められなかった。司書教諭の職務内容に関する認識が、学校によって明確になっていないことがその要因であると思われる。司書教諭の職務内容について改めて確認する必要がある。

【公立図書館との連携について】　※主要な回答（n＝40）

連携の内容

＜小学校＞
- 本の団体貸出（教科・調べ学習用）
- 本の団体貸出（学級文庫）
- 図書だよりの配布
- 公立図書館への訪問・見学

＜中学校＞
- 職場体験

連携の成果

＜小・中＞
- 子供たちの本への関心が高まった、本が好きになった。

＜小学校＞
- 調べ学習が充実した。
- 学校の蔵書不足を補える。
- 資料準備が容易にできる。

連携の課題

＜小・中＞
- 打ち合わせの時間や機会がなかなかとれない。
- 司書教諭または図書担当教員が忙しく本来の業務ができていない。
- 学校と公立図書館がネットワークでつながっていない。
- 学校司書が配置されていない。

図書館に求めるサポート

＜小・中＞
- 授業で活用できる本の紹介・リストの配布。
- 発達段階に応じたおすすめ本の紹介・リストの作成。
- 選書の具体的なアドバイス。
- 学校図書館のディスプレイへのアドバイス。
- 新しい情報（新刊本、電子書籍、デジタル教材等）の提供。

＜小学校＞
- 本の団体貸出の利用

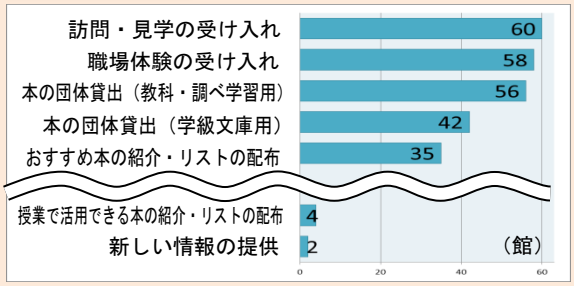
＜中学校＞
- 図書館職員による支援（ブックトーク）。

【考察】（連携の課題について）
・連携を促進するためには司書教諭や図書館担当者の存在がキーポイントである。
・学校から公立図書館への連絡が簡単にできることが重要である。公立図書館への連絡内容や時期等統一した書式があるとよいのではないか。また、年間指導計画を基にしてどの単元で、どんなサポートが必要かを計画しておけば、連携もスムーズになるのではないか。
・頻繁に連携している場合でも、公立図書館へのフィードバックはほとんどされていない。より適当な資料やサポートのために、児童の変容や学習の成果などを伝えていくことも、連携を促進する要因になるのではないか。
・学校と公立図書館との間に物流のシステムが整っていると本や資料の効果的な共有化を図ることができ連携しやすい。連絡便や巡回車等で対応している市町村もある。

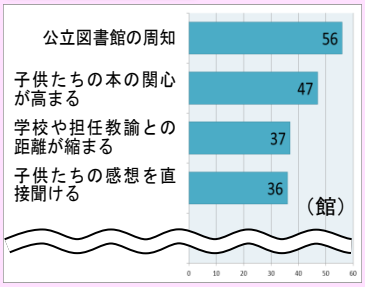
【考察】（図書館に望むサポートについて）
・多くの学校で「発達段階に応じたおすすめ本の紹介・リストの配布」「授業で活用できる本の紹介・リストの配布」「選書の具体的なアドバイス」を求めている。この現状を図書館に伝えることで、上記についての連携が図れるのではないか。
・「新しい情報（新刊本、電子書籍、デジタル教材等）の提供」はこれからのデジタル化の対応に向けて不可欠の部分である。学校と図書館が連携を図りながら、デジタル化への意識改革も進めていかなければならない。

（２） 公立図書館　【学校との連携について】

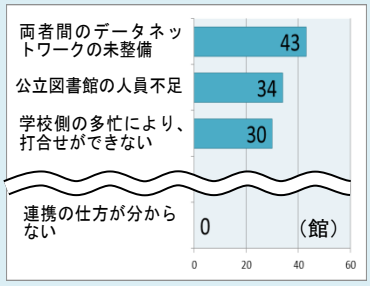
連携の内容
※主要な回答（ｎ＝62）



連携の成果
※主要な回答（ｎ＝62）



連携の課題
※主要な回答（ｎ＝62）



連携を深めるために学校に望むこと
※主要な回答

①学校司書や司書教諭の配置
②打ち合わせ時間や機会の確保
③学校からの情報提供
④校内での情報共有
⑤図書館利用促進についての啓発
⑥日程的に余裕を持った団体貸出の手続き
⑦図書館職員の活用促進
⑧連携環境の整備
⑨連携を図るための校内体制の整備

【考察】
・学校への本の団体貸出が連携を図る上でのベースとなるのではないか。この連携の際に、学校が望んでいる本の情報交換等を行いながらさらに連携を深めることで、次の活動につながるのではないか。（授業で活用できる本の紹介やリストの作成などは、学校からの情報をもとにすることでより良いものが作成できる。）

（３）連携の促進要因と阻害要因

促 進 要 因 （ ＋ ）
① 学校司書配置と司書教諭との協力体制
② 学校と公立図書館の定期的な打ち合わせの確保
③ 学校と公立図書館の相互理解、情報共有
④ 学校から公立図書館への情報提供（フィードバック）
⑤ 公立図書館から学校への情報提供（授業で活用できる本の紹介・リストの配布、発達段階に応じたおすすめの本の紹介・リストの配布、選書のアドバイス、ディスプレイのアドバイス、新しい情報）
⑥ 学校と公立図書館間の物流システムやネットワークシステムの整備

阻 害 要 因 （ － ）
① 学校の公立図書館についての理解不足
② 図書館担当者の短期間での交替
③ 打ち合わせの機会の不足
④ 学校と公立図書館間の物流システムやネットワークシステムの未確立
⑤ 人的、予算的な制約（スタッフ不足）

５ おわりに

（１） 成果と課題

○ 学校の読書活動の取組や研修の実態、司書教諭や学校司書に関する実態を把握することができた。
○ 学校司書を配置することにより、読書指導や読書活動が充実するとともに、学校図書館運営や整備に係る事務の負担感が軽減しているという実態を読み取ることができた。現在、学校司書の配置については、予算等の事情もあり各市町村により違いがあるが、学校司書の配置を促進するためにも、今後、学校司書の配置によって得られる成果をさらに具体的に明らかにしていく必要がある。
○ 連携の在り方は各市町村や図書館の規模により違いはあるものの、おおよそどの図書館も学校と連携していることが分かった。
○ 学校側と公立図書館側の連携に関する成果と課題及び双方に望むことを把握することができた。

（２） 次年度に向けて

研究１年目の成果と課題をもとに、研究２年目は以下の内容について調査研究を進める。

ア 読書活動や読書指導に関する校内研修の在り方の提案
イ 各学校図書館の資料廃棄基準の作成のためのひな形の提案
ウ 司書教諭の業務内容の確認
エ 連携を促進させる具体的な事例の提案

研究報告書は、埼玉県立総合教育センターのホームページ（http://www.center.spec.ed.jp/）から閲覧できます。